

第7回奈井江町まちづくり町民委員会議事録（要旨）

【日 時】 令和2年6月25日（木） 午後18時00分～午後20時00分

【場 所】 大会議室

【出席者】 町民委員～7名（欠席8名） 町～10名

委員	北 準一	○	三原 新	○	中村尚子	○	大櫛哲行	×	高橋典之	×
	村井啓介	×	北裕次郎	×	太田裕治	×	梅本てる子	○	藤由 均	○
	森 修平	○	長屋高史	○	福塚智美	×	吉田麻里	×		
町	三本町長、碓井副町長、相澤教育長 事務局：小澤参事、井上主幹、谷口係長、稲垣主事補 松本局長、杉野事務長、三原係長									

《小澤参事》

皆さまおぼんでございます。団体の役員改選によって奈井江町PTA連合会の下川さんの代わりに、今回から森 修平さんが出席してくれるということで推薦をいただきましたので、町長の方から委嘱状の交付をしたいと思います。

《三本町長》

【委嘱書交付】

《小澤参事》

続きまして、三本町長よりご挨拶をいただきたいと思います。

《三本町長》

本日もお集まりいただき、ありがとうございます。

今ほど委嘱しました森さんにつきましては、PTA連合会の役員改選に伴いまして、下川さんに変更新たに委員となつていただきました。課題が山積しており大変な時期ですが、どうぞよろしくお願ひいたします。また、本町民委員会の関係ですが、ご承知のとおり新型コロナウイルスの影響を受け、今年度に入ってから出席者が半数程度となつており、少ない人数での開催が続いております。

これからのまちづくりには、まちづくり自治基本条例に基づく、町民参加、協働を基本としたまちづくりを一層推進していくことが重要だと考えております。

そのため、町民や関係団体からの意見聴取や情報提供を充実することが必要と考え、農商工の関係者を中心に若者や女性の委員など委員定数を15名から20名に改める提案を先日、定例議会へ提案し、議決をいただいたところです。できるだけ早く関係団体とも調整し、次回開催時には委嘱をさせていただきたいと考えておりますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、最近の町政について説明させていただきますが、まず、農業の状況ですが、今月初旬には、メロンの初競りが行われ、最高額が2万円と新型コロナウイルスの影響で、例年に比べて約5分の1の値段に落ち込んでしまいましたが、少し小玉傾向ではあるものの甘さは良好で取り扱い額は例年ベースをキープしているとのことで少し、安心しております。また、主力作物である米については、今のところ天候にも恵まれ、平年より2日ほど早いペースで生育していると聞いております。

一方、商工業においては、新型コロナウイルスの影響を受け、総体的に厳しい状況が続いております。

先週末から北海道などを対象に求められてきた移動自粛が全面解除され、これからは新しい生活様式を取り入れた「北海道スタイル」での生活が要求されております。

国が予算措置をしている地方創生臨時交付金につきましては、昨日、2次配分として208,347千円の配分を受け、先月お伝えした1次配分の64,240千円と併せて合計272,587千円の配分を受けたところであります。

本町では、4月以降5回にわたる補正予算を編成し、国、北海道と連携しながら、事業所への支援策や公共施設の感染防止対策など町独自の緊急措置を実施してきたところですが、2次配分を受け、町民の皆さんの感染予防や社会経済活動の活性化、オンラインで授業ができるGIGAスクール構想の整備など先を見通し、新しい生活様式への対応などに努めていきたいと考えておりますので、引き続き、ご理解とご協力をお願いします。

次に、庁舎建て替えにつきましては、昨日も基本設計・実施設計に係る庁舎プロポーザル評価委員会が開催され、北委員長と梅本委員にもご協力をいただいたところですが、7月上旬の契約成立に向けて順調に準備を進めております。庁舎建て替えに向けていよいよスタートすることになりますが、町民委員会の皆さんにもご意見を伺いながら、計画づくりを進めて参りたいと考えておりますので、ご協力くださいますようお願いいたします。

それでは、本日の町民委員会についてですが、議題は、「奈井江商業高等学校への支援について」と「奈井江町立国民健康保険病院のあり方検討について」となっております。

高校支援については、後期まちづくり計画の策定段階で皆さんからたくさんのご意見をいただきましたので、その意見を踏まえて来年度の募集に向けた新たな方向性について、説明をいたします。

また、町立病院については、6月3日に第1回目となる「町立国保病院のあり方検討委員会」を開催いたしました。検討委員会には、町内外の有識者5名に加え、町民委員会から北委員長、三原副委員長にもご参加いただき、町立病院が町民の身近な医療機関として、経営の健全化と将来にわたってどのような役割を担っていくべきかそれぞれの立場からご意見を伺いながら、病院運営の方向性を決めていきたいと考えております。いずれにしましても、庁舎や温泉と併せて、今後の奈井江町の大きな課題となっております。

本日も忌憚のないご意見をいただきますようお願いいたします。

《小澤参事》

引き続き、北委員長の方からご挨拶をいただきます。

《委員長》

皆さんこんばんは。今日は第7回になります。先ほど町長より委嘱状の交付がありましたが、下川さんに代わり、森さんが新しいメンバーに加わっていただきました、ありがとうございます。コロナの感染範囲が少しずつ広がってきて予断を許さない状況が続いていますし、町内でも苦しい経営を強いられている方が多くいます。早く従来の活動になっていければ良いなど、皆さんと共に頑張っていけたらと思っています。

今日は、商業高等学校への支援と病院のあり方等について、いよいよ方向を固めなければならない時期になりました。たくさんのご意見等いただきますようお願い申し上げます。

どうぞよろしくようお願いいたします。

それでは、1つ目の議題、奈井江商業高等学校への支援について、説明をお願いいたします。

《松本局長》

皆さんこんばんは、改めて委員会へのご出席お疲れ様でございます。教育委員会の事務局長をやらせていただいております、松本と申します。よろしく願いいたします。それでは資料に基づいて進めさせていただきますと思います。

(1) 奈井江商業高等学校への支援について

【松本局長説明】

《委員長》

教育委員会としての高校支援へのあり方について、ご報告をいただきました。このことについては、この委員会でも3回くらい委員の皆さまから意見をいただけてきました。来年度に向けて通学支援の見直しをしていくということですが、高校の存続の方向も見据えて議論しながら高校の存続・維持に取り組んでいくということです。財政が絡んでくる問題でもありますから、見直しをしながらより効果的な方向へという段階であります。いま報告のありました件について、皆さまからご意見をいただけたらと思います。

《委員》

奈井江商業には特色が無いというお話しがあつたと思いますが、今もその通りだなと感じていて、奈井江商業を無くしたときにデメリットはあるのか？という観点に立ったときに思い当たることはない。奈井江町の中に高校があるというのは素晴らしいことだし、無くしてはいけないと思っています。その中で、町としてお金を支援するというのが、先ほどのデータから見ても、やはりお金だけではしぼんでいくことが分かりました。魅力が伝わってこないし、本当にあるのかなと思います。町民の意見にも書いてありますが、奈井江商業に入ったときに、大学の進学であるとか、この企業に受け入れ先がありますよというのをアピールしていくのと、町内だけでなく、空知管内にアピールしていけばよいと思います。あと3年間の中で資格もそうですが、こんな教育をしてこんな成果が得られますよ、といった特色を見出していかなければ、人口も減っていますし、人は集まってこないと思います。三笠の調理の話もありますけど、奈井江だから出来ることを教育に取り入れる働きかけをして、特色としてアピールしていかなければ、高校は存続できないと思います。

《委員》

5～6年前の話ですが、奈井江高校の先生が家に来たので色々な話を聞いたのですが、この奈井江高校は就職率がとても良いと言っていました。なぜ就職が良いのかというと、学校内でしっかり礼儀を教えるからと聞いていましたし、その当時は90何パーセント就職率があると聞いておりました。私の子供も奈井江商業の情報処理を卒業していますが、孫も現在2年生ですがお世話になっております。無くしてほしくはないので、何とか存続させてほしいと思います。小樽商科大学に入られた方もいると聞きましたので、続けていただけたらと思います。

《委員》

就職率とかではなくて、学生が行きたいと思う特色が無いと駄目だと思います。私の息子が滝西に言

った理由は、部活動が盛んだからだと言っていました。三笠高校みたいに料理をやりたいというのも良いのですが、本当に色がないと感じます。私も卒業生ですけど、潰れようが何しようがどうでもいいというのが本音ですし、何のために学校が必要かと聞かれたら分からないです。残したいのであれば、今の子どもたちが行きたいと思わせる学校づくりが必要だと思います。学校の先生も含めてみんなで話し合っ、て、どういう学校にしていくかを根本的に決めて行かないと、残したいといっても、まずそこからだと思います。

《委員長》

三笠の高校は、市長が教育長を経験していた人で、もの凄く思い入れが強かったんです。このような話しをしてはなんですが、北海道は三笠高校を没にする予定でした。しかし、市長が市立でもやると言っ、て、調理の学校にしました。議会でも最初は賛同がなかったが、市長の熱意で現在までできました。特色を出すのは大変なことですが、言われればその通りなんです。

《委員》

高校に入る子で、将来これになりたいから入学するという子は少ないと思います。高校の生活の中でこれに決めたという子が多いと思います。資格等を取得していって、自分に合うものが分かってくると思っ、て、資格が多く取得できるのは良いことだと思います。奈井江はお米で賞を取っているんで、ドローン資格を取得出来るとかにしたら、魅力あるのかなと思います。

《委員》

お金の面での支援の方向ということで、今まで保護者向けの支援だったのを子供向けの支援にする。その方向性は良いと思います。今日の話はそれ以外の支援、特色が必要だということですが、その通りだと思っ、て、町民も、実際の奈井江商業の中身を知らない人が多いのではないかと思います。私自身も教育の明日を考える集いで話しを聞いて、そうなんだと納得しました。11月頃に学校開放を行っ、て、自由に授業を見たり参加することによって思うことがありますし、あと月に1回、回覧に学校だよりが入っていますが、知るということも支援です。1人1人が興味を持つことが大切で、プログラミングが必要と言いますが、私も含めてよく分かってない方が多いです。

《委員》

奈井江町より違う市町村にアピールが必要。違う地区から来てもらうことに力を入れないと、奈井江中学校だけの卒業生だと、たかが知れてるので減っていく一方だと思う。

《委員》

高校の先生たち自体が、就職口が無かったら専門学校の方に行くように進めてるとは聞いたことがあります。

《委員》

奈井江の米はブランドが確立してきて全国的にも知られていると思うのですが、その分野に特化して

学べる環境があれば特色の1つになると思いました。

《教育長》

たくさんのご意見をいただき、本当にありがとうございます。冒頭で松本局長が説明したことに対して、皆さんと共有させていただきました。一方で、道立高校とはいえ、地元にある高校に対する想いも感じさせていただいて、このままでは駄目ではないかと、ひしひしと感じさせていただいてるところがあります。経済的な支援だと入学者数はジリ貧になっていくことが、今回の資料で明らかになりましたので、子どもたちの夢を叶えることが、学力の向上やスキルアップに繋がると思っています。新しく4月から奈井江商業高校に佐藤校長先生がいらっしゃってるのですが、先生とお話する中、情報処理科ということで、プログラミングは特色で強みになると認識をしています。現状では、全商の情報処理検定のプログラミングが2級をとっている状態で止まっている感じです。それが、更に上のものだったり、全商から日商を受けて見たりといった、そういう特色の出し方もあるのかなと感じておりますので、7月早々から教育委員会と高校で、町内だけではなく遠くのエリアの中学校まで営業をしております、例年だとまもなくやる予定ですので、今ほどいただいた意見を改めて整理させていただいて、営業活動していきたいと思えます。保護者の経済支援は基本的にカットの方針なのですが、一方で校長先生の方からは、やはり呼び水みたいなのが欲しいと強く言われてますので、そこも十分に協議して、卒業生が入学して良かったと思えるような学校にしていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。ありがとうございました。

《委員長》

次は、奈井江町立国民健康保険病院のあり方検討について説明をお願いいたします。

《杉野事務長》

皆さまこんばんは。私は町立病院の事務長の杉野と申します、よろしく願いいたします。

先日開催しました委員会で、病院の経営状況について説明をさせていただきました。その中から概要を資料にまとめたのですが、数字が多くてつまらないかもしれませんが、最後までお聞きしていただき、意見をいただけたらと思いますので、よろしく願いいたします。

(2) 奈井江町立国民健康保険病院のあり方検討について

【杉野事務長説明】

《三原係長》

続きまして、町立病院で総務係長をやらせていただいております、三原と申します。よろしく願いいたします。私の方からは、町立病院のあり方に関するアンケート調査の内容について、ご報告させていただきますので、お配りしている報告書をご覧いただけたらと思います。

(2) 奈井江町立国民健康保険病院のあり方検討について

【三原係長説明】

《委員長》

経営状況等の中で確認や聞きたいことがございましたら、皆さんから意見を聞きたいと思えますが、

どうですか？

確実に町の負担が増えてきていることは、グラフからも分かります。

《委員》

新聞に町立病院の話が載っていて衝撃だったのですが、近隣は似たような状況なのかなと思っていて、砂川という大きな病院がある中で、周辺の病院はどうしていけば良いのかなと考えました。この町は健康と福祉の町とうたっているのですが、病院は無くしてはいけないと感じています。温泉とは別の次元の話だと思っていて、町のコンセプトに関わる問題だと思っています。ただ町民の人口から考えると、どうやって病院を存続させていくかもあって、赤字収支を考えると、企業健康診断を町立病院の設備を使用させてお金を取るだとか、そういう営業活動をしないと厳しいと思います。

《委員》

町立病院を無くすことはできないと思います。奈井江町の方が入院していたのですが、3か月経ったら砂川市立からよその病院に移らなければならないのに、それが中々見つからない。そういう時に受け入れてくれる医療機関がないと、困ると思います。

《杉野事務長》

貴重なご意見ありがとうございます。

町立病院のあり方として、病気になる前の予防が大事だと考えております。ただ、今すぐに検査数を増やせるかという難しい部分もありますが、これからあり方検討委員会を進めて行く中で、どうやって収益を増やしていくかという話しもでてくるかと思っておりますので、今ほどいただいたご意見も委員会の方にお伝えするとともに、病院としても収益を確保できるように色々と検討していきたいと思っております。

病院の健診のウリの1つに、最初の健診の段階から胃カメラを選択できることが挙げられます。色々な企業様にご利用いただいているのですが、如何せん検査数に限度があるものですから、受入れできないことがあって申し訳ないと思っておりますが、そこも今後の検討に載せていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それと、砂川の病院と病病連携ということで、平成17年から連携を結んだうえで患者の受け入れを行っておりまして、病院の入院の大部分は砂川市立病院からご紹介いただいた方となっております。

《委員》

在宅リハビリみたいなことは、奈井江の病院ではできないのか？

《杉野事務長》

リハビリの部門を設けてはいますが、大前提として疾患に基づくリハビリになりますから、病気がうちの病院で対応できるものでないと、リハビリを提供することが難しいという問題があります。リハビリ自体も人材的な不足がありまして、在宅に出向いてできれば良いとは思いますが、できないという状況がございます。是非、これからの検討の中で進めていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

《委員》

今後また意見をいただくかと思っておりますが、今日はここまでにしたいと思っております。

《三本町長》

長時間に亘って活発なご意見をいただいたこと、心から感謝申し上げます。

今日は商業高校のあり方と病院の2点でしたが、基本的な考え方を私の言葉で申し上げたいと思います。2つに共通しているのは、人口が減少しているということが1番大きな柱になりまして、先ほど説明をしましたが入院患者数も減少しています。今日のテーマではありませんが、温泉の利用客も同じように減少していく、という人口減少が大きな課題としてでてきました。病院も高校も中々あらがいがたいことではあります、どのように対応するかを議論していただきたいと思いますので、改めてお願い申し上げます。

高校については三笠の例などもあり、町長頑張れの声もいただきましたけど、三笠市や他の市も町の柱として置いています。奈井江の町民の皆さまが、そのご理解をいただけるのか、財政的な持ち出しをもの凄くしていますから、そういった町の存続にこの高校が無くてはならないという価値を見出せるかどうか。そこに対して、どれだけの支援ができるかという議論がベースにあると思います。先ほど教育長から申し上げました通り、色々なチャレンジをしていきたいと思っておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

2点目ですが、地域包括ケアという大きな柱があり、施設的には健寿苑ややすらぎ、小規模多機能介護を含む部分もあって、これに町立病院がどのような役割を果たしていくのか。改革というと、どうしても皆さん無くすほうに目が行ってしまいますが、どのように残すかを議論していきたいと新聞にもコメントさせていただきましたので、そのことは肝に銘じて議論を進めていきたいとお約束します。もう1つ、施設を充実させてはどうかということもありますが、財政状況の中で守るのか攻めるのか、そのようなことも含めてしっかりと議論させていただきます。もう1つ、地域包括ケアというのは、まちづくり全部に係ってくる話しになります。1つ1つのことを細切れに議論するのではなく、そういった視点も持って話しをしていければと思っております。そのような想いで皆さんの意見をお聞きしていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。